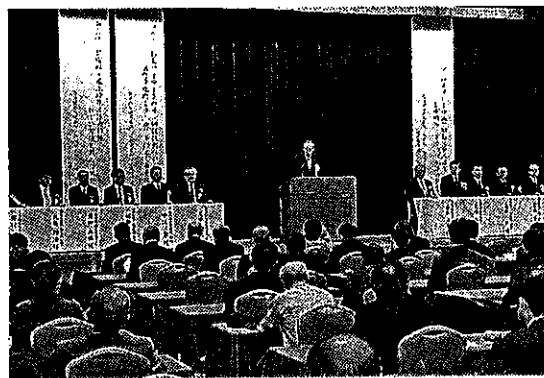


24年度研究成果発表会 日本建設技術が開催



【佐賀】日本建設技術(株)(唐津市北波多、原裕社長)グループは14日、平成24年度(第9回)の研究成果発表会を唐津市の唐津シーサイドホテルで開催し写真11し、FWG・屋上緑化工法における無機土壌の開発や粉末ゼオライトを応用したリン回収技術などについて報告した。

発表会には全社員と来賓など約170人が出席。冒頭、原社長は「公共事業の削減で建設業界は厳しい経営環境にあるが、グループ各社の連携により、雇用を通じて地域社会に貢献していきたい。本年度も廃ガラスを利用したミラクルソルの技術提案を積極的に展開する。時代のニーズを感じ取る力と挑戦する勇氣

が吸水性・保水性に優れたミラクルソルを用いたFWG・屋上緑化工法について発表。近年、既設建物で屋上緑化が増加傾向にあるとした上で「ミラクルソルだけで土壌を構成する土壌無機化の開発に取り組んだ。人工の土壌を用いることで軽量化などを実現しており、既存建物における屋上緑化工法として普及を図りたい」と話した。

研究成果では、企画開発戦略本部の牛原祐司氏が

を吸着材として用いて、リンを回収するもの。廃水から吸着したアンモニアとリン酸を同一液で脱着し、集積した溶液にマグネシウムを添加することで、容易な回収を可能とした。飯田氏は「このほど佐賀大学と日本建設技術、戸上電機製作所のグループでゼオライトを応用したリン回収技術を開発。諸富北部地区の農業集落排水処理施設で実証試験を開始しており、平成25年度中の実用化を目指す」とした。また、原社長は「2011年度のおゆみとMBS S工法とFWGウッドチップエ

法の併用」と題して、平成23年度の活動を報告。地下水の確保が困難な岩盤斜面での法面保護と緑化を可能としたミラクルS工法」と間伐材を利用した「FWGウッドチップ工法」の特徴や施工フローについて説明した。

成果発表の後に、佐賀大学低平地沿岸海域研究センターの荒木宏之教授は「継続的な研究活動や技術開発を高く評価したい。今後も技術に対する自信を持って、既成概念にとらわれない開発に取り組んでほしい」と講評した。

企画開発戦略本部の飯田拓史氏は、「粉末ゼオライトのリン回収技術への応用」について説明。同技術は、粉末ゼオライトとハイドロタルサイト

を吸着材として用いて、リンを回収するもの。廃水から吸着したアンモニアとリン酸を同一液で脱着し、集積した溶液にマグネシウムを添加することで、容易な回収を可能とした。飯田氏は「このほど佐賀大学と日本建設技術、戸上電機製作所のグループでゼオライトを応用したリン回収技術を開発。諸富北部地区の農業集落排水処理施設で実証試験を開始しており、平成25年度中の実用化を目指す」とした。また、原社長は「2011年度のおゆみとMBS S工法とFWGウッドチップエ

法の併用」と題して、平成23年度の活動を報告。地下水の確保が困難な岩盤斜面での法面保護と緑化を可能としたミラクルS工法」と間伐材を利用した「FWGウッドチップ工法」の特徴や施工フローについて説明した。

成果発表の後に、佐賀大学低平地沿岸海域研究センターの荒木宏之教授は「継続的な研究活動や技術開発を高く評価したい。今後も技術に対する自信を持って、既成概念にとらわれない開発に取り組んでほしい」と講評した。